

第11回 1/48 透明ムスタング(ニチモ)の巻



プラモデルが機械や動物の構造を知る「知育玩具」という役割を担っていた頃には、内部の構造を見ることを目的としたキットが存在しました。古くはマルサン商会の昆虫の不思議シリーズ(何年か前に親戚宅を訪問したところこの絶版キットをまさに組み立て中で、余りの勿体無さに気を失いそうになりました)からクラウンの人体模型シリーズ、タミヤ1/50彩雲やLS1/75キ-109の様に一部のみ外装パーツが透明というキットもありました。この分野で特に有名なのがモノグラムのファントムムスタング(F-4ファントムの事では有りません、念の為)なのですが、当然大多数の日本の子供は見た事すらない文字通り「幻」の模型でした。そこで国産のP-51のプラモデルをベースに、「しつこくねだれば(笑)買ってもらえそうな」透明なムスタングのキットが発売されたのではないかと推察されます。

今回取り上げているのはニチモ製の1/48キットです。ニチモの1/48は何と言っても機体表面のリベット等の表現に味があり、プロペラ回転・翼折り畳み・ラダー可動・主脚収納等のギミックを盛り込みながらもプロポーションを維持している好キットです。中でもムスタングは零戦と並ぶ完成度を誇り、ラダーと主脚の可動ギミックが充実しております。現在も再販物の入手が可能ですが、価格は赤く塗らないのに3倍の1,500円(涙)になっています。透明ムスタングはこの秀作キットの外装部分を透明な樹脂で成形し、内部のケタ部品及び飾り台(この辺もファントムムスタングを意識している)が追加されています。



さて今回は(連載十回突破という事もあり)、他キットもあわせて紹介することにします。まず隣に有るのが1/32ファントムムスタング(再販)の箱写真です。ネット検索で見つけました。透明であるばかりでなく各可動部が連動して可動するという壮絶なキットらしいです。残念ながら手元には有りませんので、小田雅弘氏(私の心の師匠)のレビューページにリンクを貼っております。是非そちらをご覧下さい。

もう一つ、ハセガワからも透明なムスタングが発売されていました。1/70というスケールから察するに、かなり初期の頃の製品と思われます(パッケージ画像は再販品...何



故か再販ファンムスタングそっくり)。行きつけの模型店(yabochan様いつもお世話になっております)のご好意により、このキットを借用し撮影をさせて頂きました。箱絵をクリックする事でキット内容をご覧頂けます。このキット、大きさからすると最も買易い価格の透明ムスタングな訳ですが、当時は幾らだったのでしょうか?

ところでハセガワからは、内部精密再現の1/48零戦や紫電改が発売されております(「スケルトンモデル」と冠されている)。でも何か違うんだよなあ。やっぱりケタ部品はマルサン以来伝統の派手な緑色でないと(爆)

キットデータ

メーカー	ニチモ
スケール	1/48
当時価格	700円(税抜)